

平成21年度総合計画実施計画・事務事業評価シート

評価調査番号 社会 3

●PLAN(計画)・・・事業の当初目的、施策方針、概要、目指す将来像を記載(事前評価)

(1) 事業概要	①細事業名	成人式開催事業		⑤担当部局	部局名 教育委員会事務局	課等 社会教育課	No.1 作成者		
	②事業主体	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等		⑥予算科目	会計名称	款	項	目	
	③事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	継続		一般会計	10	05	01	事業 04 細事業 01
	④総事業費	千円		⑦事業の性格	<input type="checkbox"/> 義務的事業		<input checked="" type="checkbox"/> 任意的事業		
	⑧実施根拠	法令、条例等	なし						
(2) 総合計画	①基本方針	基本目標(=政策目的)	IV	次代を担う若い力が活躍できる生涯学習都市					
	②計画項目	個別目標(=施策目的)	③	若者の育成					
	③施策方針	基本計画に掲げる方針	1	青少年の健全育成					
(3) 事業内容	①事業目的	京丹後市の新成人を一堂に集め、成人としての門出を祝う場として式典を開催する。							
	②対 象	京丹後市出身の新成人							
	③手段・手法	記念式典の開催。							
	④事業を必要とする背景又は経緯	新成人の門出を祝うために実施している。							
	⑤市民参加の取組・内容	有 より多くの新成人に参加していただけるような働きかけや広報活動を行っている。							
(4) 達成目標	①達成目標(期待する効果)			②成果指標名		現況値(H19)	目標値(H24)		
3年後もしくは最終(概ね5年後)	新成人の成人式への出席率の向上			成人式への出席率		80%	90%		

●DO(実施)・・・どのくらいの予算でどのような活動(成果)を行ったかを記載

		H19年度決算額		H20年度決算額								
(5) 実施事業	アトラクション 記念式典、二十歳の主張等 記念品、記念写真		アトラクション 記念式典、二十歳の主張等 記念品、記念写真									
	(6) 予算科目	節	金額(千円)	節	金額(千円)							
		8	1,202	8	1,341							
		11	36	11	55							
		12	66	12	209							
	14	138	13	17								
			14	175								
事業費合計		1,442		1,797								
財源内訳	国庫支出金											
	府支出金											
	起 債											
	分担金・負担金											
	その他の 一般財源		1,442		1,797							

●CHECK (点検) ①・・・事業実施によりどのような成果があったか (一次評価)

(7) 昨年度評価の概要	① 事業内容の方向性	①	② 事業規模の方向性	②	③ H20実施における改善実績	新成人への広報活動など働きかけを行うことにより、出席率を向上させるよう努めた。					
(8) 成果状況 (H20年度事業実績状況)	①達成目標 (期待する効果・成果指標)				H19実績	単位	H20目標	単位	H20実績	単位	H20達成率
	1) 成人式への出席率				80	%	90	%	80	%	89%
	2)										
	3)										
②その他具体的成果			平成19年度実績			平成20年度実績					
			京丹後市出身の新成人を京都府丹後文化会館に一同に会して式典を開催。積雪の少ない3月に式典を開催するなど、参加される方に配慮している。			市内新成人を京都府丹後文化会館に一同に会して式典を開催。積雪の少ない3月に式典を開催するなど、参加される方に配慮している。					

●CHECK (点検) ②・・・事務事業評価において上記の自己評価を判断した事由を下記の項目毎に記載 (一次評価)

(9) 事務事業の点検	①戦略性 (上位施策に対して有効か)	③	①基本計画の主要事業である ②実施計画の掲載事業である ③計画に結びつく事業である ④結びつかない	総合計画にうたう「若者の育成」に基づき、社会人の一員となる若者の門出を祝う事業は有効である。
	②市の関与の妥当性 (市が実施する必要があるか)	②	①市が実施する事業である ②市民等の参画協力の余地がある ③市民等民間へ移行の余地がある ④市が関与するものでない	新成人の中で実行委員会を組織して企画・運営するなど、市民参画による成人式の開催も近年見られる。
	③時代適合性 (社会情勢等から見て必要か)	①	①当初と変わらず必要性は高い ②社会情勢の変化、住民ニーズの変化により若干薄れてきている ③薄れている	少子化社会のなかで、次代を担う新成人への期待は大きく、市として社会人の一員となる若者の門出を祝うことは重要である。
	④効率性 (コスト単価・経費削減への取り組み)	①	①削減の余地は全くない ②削減の余地は若干ある ③削減の余地がある	必要最低限の事業費で開催しているため、コスト削減は難しいと思われる。
	⑤有効性 (目的・必要性に対しての効果)	②	①大変有効である ②有効である ③余り有効でない ④有効でない	3月ではなく1月に開催してほしいのご意見もあるが、積雪の少ない3月に開催することで参加者に配慮していることをご理解いただき、有効な効果が出ていると認識している。
	⑥達成度 (事業目標に対して)	②	①達成できた (100%以上) ②概ね達成できた (80%以上) ③あまり達成できなかった (50%以下) ④達成できなかった (50%未満)	出席率は、年によって若干の変動はあるものの80%に達している。

●ACTION (改善) ・・・改善内容等を記載 (一次評価・二次評価)

(10) 改善	①事業内容の方向性			②事業規模の方向性		
	①	①現状維持 ②内容の見直し ③統廃合・休止 ④事業終了	新成人の門出を祝う伝統的な事業であり、継続して実施する必要がある。	②	①事業拡大 ②現状維持 ③事業縮小	新成人に対する積極的な広報活動や働きかけを行い、出席率を上げていく必要がある。

平成21年度総合計画実施計画・事務事業評価シート

評価調査番号 社会 4

●PLAN(計画)・・・事業の当初目的、施策方針、概要、目指す将来像を記載(事前評価)

(1) 事業概要	①細事業名	青少年教育事業		⑤担当部局	部局名 教育委員会事務局	課等 社会教育課	No.1 作成者	
	②事業主体	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等		⑥予算科目	会計名称	款	項	目
	③事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度 継続			一般会計	10	05	01
	④総事業費	4,660 千円		⑦事業の性格	<input type="checkbox"/> 義務的事業		<input checked="" type="checkbox"/> 任意的事業	
(2) 総合計画	⑧実施根拠	法令、条例等		社会教育法				
	①基本方針	基本目標(=政策目的)	IV	次代を担う若い力が活躍できる生涯学習都市				
	②計画項目	個別目標(=施策目的)	③	若者の育成				
(3) 事業内容	③施策方針	基本計画に掲げる方針						
	①事業目的	体験活動の実施や関係団体への支援を通して、京丹後市の将来を担う青少年の心豊かな人間形成の基礎づくりを目的とする。						
	②対 象	京丹後市内の青少年						
	③手段・手法	体験活動事業の実施、伝統文化継承など地域活動への参加促進を図る。						
	④事業を必要とする背景又は経緯	以前は、日常生活の中で体験できたことが、利便性の向上や安全・安心の不安から、子供のさまざまな体験が制限されている。また、核家族化や共働きが進む現状にあって、子どもの孤立化が指摘されている。このような中で、様々な体験活動や子どもの居場所づくりを積極的に行う必要がある。						
(4) 達成目標	⑤市民参加の取組・内容	有 子供の体験活動へのボランティア参加						
	3年後もしくは最終(概ね5年後)	①達成目標 (期待する効果)		②成果指標名		現況値(H19)	目標値(H24)	
		様々な体験活動の実施と放課後や休日における子どもの居場所づくり		事業参加者の増加		2,650人	3,180人	

●DO(実施)・・・どのくらいの予算でどのような活動(成果)を行ったかを記載

(5) 実施事業	H19年度決算額		H20年度決算額					
	・子どもの体験事業(キャンプ、環境学習、歴史体験等) ・青少年芸術シアター ・映画会 ・団体補助		・子どもの体験事業(キャンプ、環境学習、歴史体験等) ・青少年芸術シアター ・映画会 ・団体補助					
(6) 予算科目	節	金額(千円)	節	金額(千円)				
	8	80	8	194				
	11	285	9	81				
	12	11	11	246				
	13	1,071	13	717				
	14	680	14	705				
	18	189	19	3,266				
	19	3,633						
事業費合計		5,949	5,209					
財源内訳	国庫支出金	子どもの映画鑑賞普及事業費委託金	280					
	府支出金							
	起 債							
	分担金・負担金							
	そ の 他							
一 般 財 源		5,669	5,209					

●CHECK (点検) ①・・・事業実施によりどのような成果があったか (一次評価)

(7) 昨年度評価の概要	① 事業内容の方向性	①	② 事業規模の方向性	①	③ H20実施における改善実績	子供の協調性の育成と主体的な活動を重視するよう努めた。				
(8) 成果状況 (H20年度事業実績状況)	①達成目標 (期待する効果・成果指標)		H19実績		単位	H20目標	単位	H20実績	単位	H20達成率
	1) 事業参加者		2,650		人	3000	人	2906	人	97%
	2)									
	3)									
②その他具体的成果		平成19年度実績				平成20年度実績				
		キャンプ、歴史学習、各種体験活動を実施した。また、関係団体の活動を支援した。				キャンプ、歴史学習、各種体験活動を実施した。また、関係団体の活動を支援した。				

●CHECK (点検) ②・・・事務事業評価において上記の自己評価を判断した事由を下記の項目毎に記載 (一次評価)

(9) 事務事業の点検	①戦略性 (上位施策に対して有効か)	①	①基本計画の主要事業である ②実施計画の掲載事業である ③計画に結びつく事業である ④結びつかない	京丹後市の将来を担う青少年の健全育成を目的とするものであり、大変重要な事業である。
	②市の関与の妥当性 (市が実施する必要があるか)	②	①市が実施する事業である ②市民等の参画協力の余地がある ③市民等民間へ移行の余地がある ④市が関与するものでない	ボランティアや地域の大人も交え、様々な人とふれあうことにより、より効果的な事業となる。
	③時代適合性 (社会情勢等から見て必要か)	①	①当初と変わらず必要性は高い ②社会情勢の変化、住民ニーズの変化により若干薄れてきている ③薄れている	青少年をとりまく近況を見ると、本事業の必要性はさらに高まっている。
	④効率性 (コスト単価・経費削減への取り組み)	①	①削減の余地は全くない ②削減の余地は若干ある ③削減の余地がある	子どもを対象とした事業であるため、受益者負担を徹底することは困難である。
	⑤有効性 (目的・必要性に対しての効果)	①	①大変有効である ②有効である ③余り有効でない ④有効でない	様々な体験活動を通して、青少年の健全育成に有効であった。
	⑥達成度 (事業目標に対して)	②	①達成できた (100%以上) ②概ね達成できた (80%以上) ③あまり達成できなかった (50%以上) ④達成できなかった (50%未満)	市民の学習ニーズは多様化してきており、その学習機会を提供することにより、より多くの市民の様々な学習活動への参加ができた。

●ACTION (改善) ・・・改善内容等を記載 (一次評価・二次評価)

(10) 改善	①事業内容の方向性			②事業規模の方向性		
	①	①現状維持 ②内容の見直し ③統廃合・休止 ④事業終了	従来どおり体験事業等を実施するとともに、子どもの健全育成を目的とした団体の支援を行っていく。	①	①事業拡大 ②現状維持 ③事業縮小	青少年を取り巻く状況から考えると、地域、家庭、学校と連携協力しながら、地域全体で青少年を育成していく必要がある。

平成21年度総合計画実施計画・事務事業評価シート

評価調査番号 社会 9

●PLAN(計画)・・・事業の当初目的、施策方針、概要、目指す将来像を記載(事前評価)

(1) 事業概要	①細事業名	家庭教育事業		⑤担当部局	部局名 教育委員会事務局	課等 社会教育課	No.1 作成者		
	②事業主体	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助等		⑥予算科目	会計名称	款	項	目	
	③事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	継続		一般会計	10	05	01	事業 10 細事業 01
	④総事業費	千円		⑦事業の性格	<input type="checkbox"/> 義務的事業		<input checked="" type="checkbox"/> 任意的事業		
	⑧実施根拠	法令、条例等							
(2) 総合計画	①基本方針	基本目標(=政策的)	IV	次代を担う若い力が活躍できる生涯学習都市					
	②計画項目	個別目標(=施策目的)	③	若者の育成					
	③施策方針	基本計画に掲げる方針	1	青少年の健全育成					
(3) 事業内容	①事業目的	京丹後市の次代を担う子どもの健やかな成長を支援するため、家庭・学校・地域が連携した学習機会の提供をおこなう。また、家族間交流をを促進するための事業を実施する。							
	②対象	市民一般							
	③手段・手法	家庭教育についての学習機会として、各種講座・講演会を開催するとともに、親子を対象とした体験事業の実施する。また、家庭教育関係団体の育成・支援をおこなう。							
	④事業を必要とする背景又は経緯	子供の安らぎの場であるべき「家庭」でも子供が犠牲となる凶悪な事件が発生している。このため、京丹後市としては、子育て支援だけではなく、「家庭」の在り方についての学習機会を提供することも必要である。							
	⑤市民参加の取組・内容	有 講演会、各種事業への参加							
(4) 達成目標	①達成目標(期待する効果)				②成果指標名		現況値(H19)	目標値(H24)	
3年後もしくは最終(概ね5年後)	各種事業を通じて、家庭の教育力の向上を図る。				事業参加者数		668人	1800人	

●DO(実施)・・・どのくらいの予算でどのような活動(成果)を行ったかを記載

(5) 実施事業	H19年度決算額		H20年度決算額					
	子育て講座 親子ふれあい教室 「母の鐘」維持管理 京丹後市PTA活動補助		子育て講座 親子ふれあい教室 京丹後市PTA活動補助					
(6) 予算科目	節	金額(千円)	節	金額(千円)				
	8	141	8	777				
	11	212	9	0				
	13	5	11	132				
	14	1	12	17				
	19	786	13	9				
			14	1				
		19	756					
事業費合計		1,145	1,692					
財源内訳	国庫支出金							
	府支出金							
	起債							
	分担金・負担金							
	その他 一般財源	1,145	1,692	0	0	0	0	0

●CHECK (点検) ①・・・事業実施によりどのような成果があったか (一次評価)

(7) 昨年度評価の概要	① 事業内容の方向性	①	② 事業規模の方向性	②	③ H20実施における改善実績	家庭教育に関する学習機会の提供及びPTA活動の支援を行った。				
(8) 成果状況 (H20年度事業実績状況)	①達成目標 (期待する効果・成果指標)			H19実績	単位	H20目標	単位	H20実績	単位	H20達成率
	1) 参加者人数			668	人	1500	人	1995	人	133%
	2)									
	3)									
②その他具体的成果			平成19年度実績			平成20年度実績				
			家庭教育に関する学習機会の提供及び親子と一緒に参加できる事業を実施した。また、PTA活動の支援及び「母の鐘」の修繕を行った。			家庭教育に関する学習機会の提供及び親子と一緒に参加できる事業を実施した。また、PTA活動の支援を行った。				

●CHECK (点検) ②・・・事務事業評価において上記の自己評価を判断した事由を下記の項目毎に記載 (一次評価)

(9) 事務事業の点検	①戦略性 (上位施策に対して有効か)	①	①基本計画の主要事業である ②実施計画の掲載事業である ③計画に結びつく事業である ④結びつかない	家庭教育は、「人づくり」の原点であり重要な課題である。京丹後市の将来を担う子どもたちをばぐくむ「豊かな家庭環境」を作るために守るために、家庭教育事業は重要である。
	②市の関与の妥当性 (市が実施する必要があるか)	②	①市が実施する事業である ②市民等の参画協力の余地がある ③市民等民間へ移行の余地がある ④市が関与するものでない	将来のまちづくりを進めるために、社会教育だけでなく京丹後市としても重要な課題であり、市が積極的に事業を実施する必要がある。
	③時代適合性 (社会情勢等から見て必要か)	①	①当初と変わらず必要性は高い ②社会情勢の変化、住民ニーズの変化により若干薄れてきている ③薄れている	家庭を含めた子どもを取り巻く生活環境でのさまざまな凶悪犯罪が発生している。このため、「子育て」や「家庭の在り方」だけでなく、各関係機関と連携し、幅広く家庭教育事業の拡充を図ることが重要である。
	④効率性 (コスト単価・経費削減への取り組み)	②	①削減の余地は全くない ②削減の余地は若干ある ③削減の余地がある	親子交流等、事業の内容によっては、参加者からの負担を検討することが可能である。
	⑤有効性 (目的・必要性に対しての効果)	①	①大変有効である ②有効である ③余り有効でない ④有効でない	「子育て」に関する学習機会では、参加者からも好評であり、「家庭」について考える機会として重要である。また、PTA活動が学校と地域を結ぶ有効活動として機能することは、地域づくりについても重要な役割を果たすことが期待できる。さらに、「母の鐘」は地域で子どもを見守るため有効な手段である。
	⑥達成度 (事業目標に対して)	①	①達成できた (100%以上) ②概ね達成できた (80%以上) ③あまり達成できなかった (50%以下) ④達成できなかった (50%未満)	それぞれ計画していた事業が、予算の範囲内において、有効に実施することができた。

●ACTION (改善) ・・・改善内容等を記載 (一次評価・二次評価)

(10) 改善	①事業内容の方向性			②事業規模の方向性		
	②	①現状維持 ②内容の見直し ③統廃合・休止 ④事業終了	家庭教育における学習課題の把握に努め、効果的な事業を実施するための更なる改善を図るとともに、より多くの関係者が参加しやすい事業を実施する。	②	①事業拡大 ②現状維持 ③事業縮小	引き続き「家庭教育」の重要性を啓発するとともに、家庭教育事業の充実を図る必要がある。

平成21年度総合計画実施計画・事務事業評価シート

評価調査番号 社会 44

●PLAN(計画)・・・事業の当初目的、施策方針、概要、目指す将来像を記載(事前評価)

(1) 事業概要	①細事業名	青少年スポーツ教室事業		⑤担当部局	部局名 教育委員会事務局 社会教育課		課等		No.1 作成者		
	②事業主体	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等		⑥予算科目	会計名称		款	項	目	事業	細事業
	③事業期間	平成 19 年度 ~ 平成 20 年度 継続			一般会計		10	06	02	04	01
	④総事業費	3,449 千円		⑦事業の性格	<input type="checkbox"/> 義務的事業 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的事業						
	⑧実施根拠	法令、条例等									
(2) 総合計画	①基本方針	基本目標(=政策目的)		IV	次世代を担う若い力が活躍できる生涯学習都市						
	②計画項目	個別目標(=施策目的)		②	若者の育成						
	③施策方針	基本計画に掲げる方針		1	青少年の健全育成						
(3) 事業内容	①事業目的	京丹後市の次代を担う青少年の健全育成と体力・運動能力の向上、そして地域指導者の育成を図る。									
	②対 象	青少年スポーツ団体									
	③手段・手法	各教室への活動支援として指導者謝金を支給。									
	④事業を必要とする背景又は経緯	青少年スポーツ団体である各種教室への支援として指導者謝金を支給することで、青少年の健全育成と体力・運動能力の向上、そして地域指導者の育成を図る。									
	⑤市民参加の取組・内容	有									
(4) 達成目標	①達成目標 (期待する効果)				②成果指標名			現況値(H19)	目標値(H24)		
3年後もしくは最終(概ね5年後)											

●DO(実施)・・・どのくらいの予算でどのような活動(成果)を行ったかを記載

(5) 実施事業	H19年度決算額		H20年度決算額								
	青少年スポーツ教室		青少年スポーツ教室								
(6) 予算科目	節	金額(千円)	節	金額(千円)							
	8	3,402	8	3,357							
	11	19	11	13							
事業費合計		3,421	3,370								
財源内訳	国庫支出金										
	府支出金										
	起 債										
	分担金・負担金										
	そ の 他 一 般 財 源	3,421	3,370								

●CHECK (点検) ①・・・事業実施によりどのような成果があったか (一次評価)

(7) 昨年度評価の概要	① 事業内容の方向性	①	② 事業規模の方向性	②	③ H20実施における改善実績						
(8) 成果状況 (H20年度事業実績状況)	①達成目標 (期待する効果・成果指標)				H19実績	単位	H20目標	単位	H20実績	単位	H20達成率
	1)										
	2)										
	3)										
②その他具体的成果	平成19年度実績				平成20年度実績						
	基準をクリアした青少年スポーツ団体に謝金交付し、青少年の健全育成と体力・運動能力の向上、地域指導者の育成を図った。				基準をクリアした青少年スポーツ団体に謝金交付し、青少年の健全育成と体力・運動能力の向上、地域指導者の育成を図った。						

●CHECK (点検) ②・・・事務事業評価において上記の自己評価を判断した事由を下記の項目毎に記載 (一次評価)

(9) 事務事業の点検	①戦略性 (上位施策に対して有効か)	③	①基本計画の主要事業である ②実施計画の掲載事業である ③計画に結びつく事業である ④結びつかない	幼少期からのスポーツの習慣付けは、大人になってからのスポーツ活動の基礎となるため、スポーツ実施率の向上に大きく貢献している。
	②市の関与の妥当性 (市が実施する必要があるか)	①	①市が実施する事業である ②市民等の参画協力の余地がある ③市民等民間へ移行の余地がある ④市が関与するものでない	青少年の健全育成と体力・運動能力の向上を図るため、市が行うのが妥当である。
	③時代適合性 (社会情勢等から見て必要か)	①	①当初と変わらず必要性は高い ②社会情勢の変化、住民ニーズの変化により若干薄れてきている ③薄れている	子どもの体力低下が問題となっている中、青少年のスポーツ活動を推進し、体力・運動能力の向上を図る必要がある。
	④効率性 (コスト単価・経費削減への取り組み)	①	①削減の余地は全くない ②削減の余地は若干ある ③削減の余地がある	青少年のスポーツ活動を推進する上で必要な経費である。
	⑤有効性 (目的・必要性に対しての効果)	①	①大変有効である ②有効である ③余り有効でない ④有効でない	幼少期からのスポーツの習慣付けは、スポーツ実施率の向上に大変有効であると考えられる。
	⑥達成度 (事業目標に対して)	②	①達成できた (100%以上) ②概ね達成できた (80%以上) ③あまり達成できなかった (50%以下) ④達成できなかった (50%未満)	青少年の健全育成と体力・運動能力の向上を図った。

●ACTION (改善) ・・・改善内容等を記載 (一次評価・二次評価)

(10) 改善	①事業内容の方向性			②事業規模の方向性		
	①	①現状維持 ②内容の見直し ③統廃合・休止 ④事業終了	青少年の健全育成と体力・運動能力の向上を図るとともに、青少年スポーツ団体を総括する組織づくりを行う必要がある。	②	①事業拡大 ②現状維持 ③事業縮小	今後、少子化により教室生の減少が考えられ若干の教室数の増減はあるものの、当面は大幅な増減はないものと考えられる。

平成21年度総合計画実施計画・事務事業評価シート

評価調査番号 社会 45

●PLAN(計画)・・・事業の当初目的、施策方針、概要、目指す将来像を記載(事前評価)

(1) 事業概要	①細事業名	全国高等学校総合体育大会開催準備事業		⑤担当部局	部局名 教育委員会	課等 社会教育	No.1 作成者	
	②事業主体	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助等		⑥予算科目	会計名称	款	項	目
	③事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 21 年度			一般会計	10	06	02
	④総事業費	25,371 千円		⑦事業の性格	<input type="checkbox"/> 義務的事業		<input checked="" type="checkbox"/> 任意的事業	
	⑧実施根拠	法令、条例等						
(2) 総合計画	①基本方針	基本目標(=政策目的)	IV	次世代を担う若い力が活躍できる生涯学習都市				
	②計画項目	個別目標(=施策目的)	②	若者の育成				
	③施策方針	基本計画に掲げる方針	1	青少年の健全育成				
(3) 事業内容	①事業目的	平成21年度全国高等学校総合体育大会に向けた大会会場・施設の整備、備品等の購入および、大会開催経費の補助を行う。多額の経費がかからない方法で開催に向けて準備を進めるとともに、今後カヌー競技場で行われる各種カヌー大会、ドラゴンカヌー大会など市民の利活用に貢献できる事業を進める。						
	②対 象							
	③手段・手法	施設の整備、備品の購入、開催市として大会開催経費の補助。						
	④事業を必要とする背景又は経緯	大会の開催に向けて、必要な施設または備品についての整理が必要となっていること、大会開催にあたり、開催市として大会経費の1/4(10,000,000円を超える分については、京都府が負担)を負担することで調整しているため。						
	⑤市民参加の取組・内容							
(4) 達成目標	①達成目標 (期待する効果)			②成果指標名		現況値(H19)	目標値(H24)	
3年後もしくは最終(概ね5年後)								

●DO(実施)・・・どのくらいの予算でどのような活動(成果)を行ったかを記載

		H19年度決算額		H20年度決算額		H21年度予算額		H22年度計画額		H23年度計画額		H24年度計画額		
(5) 実施事業				備品購入										
(6) 予算科目	節	金額(千円)	節	金額(千円)	節	金額(千円)	節	金額(千円)	節	金額(千円)	節	金額(千円)	節	金額(千円)
			18	12,474										
			0		12,474		0		0		0		0	
財源内訳	国庫支出金													
	府支出金													
	起 債													
	分担金・負担金													
	そ の 他													
		0		12,474		0		0		0		0		0

●CHECK (点検) ①・・・事業実施によりどのような成果があったか (一次評価)

(7) 昨年度評価の概要	① 事業内容の方向性	①	② 事業規模の方向性	①	③ H20実施における改善実績						
(8) 成果状況 (H20年度事業実績状況)	①達成目標 (期待する効果・成果指標)				H19実績	単位	H20目標	単位	H20実績	単位	H20達成率
	1)										
	2)										
	3)										
	②その他具体的成果				平成19年度実績				平成20年度実績		

●CHECK (点検) ②・・・事務事業評価において上記の自己評価を判断した事由を下記の項目毎に記載 (一次評価)

(9) 事務事業の点検	①戦略性 (上位施策に対して有効か)	③	①基本計画の主要事業である ②実施計画の掲載事業である ③計画に結びつく事業である ④結びつかない	総合計画の「社会教育・スポーツを充実させる」ために必要な事業である。
	②市の関与の妥当性 (市が実施する必要があるか)	①	①市が実施する事業である ②市民等の参画協力の余地がある ③市民等民間へ移行の余地がある ④市が関与するものでない	大会開催に伴い、全国各地から多くの選手及び役員、応援団の来場が期待され、地元地域の活性化、市の経済効果が期待されることや、地域のいスポーツ振興の点から見て市への関与が妥当である。
	③時代適合性 (社会情勢等から見て必要か)		①当初と変わらず必要性は高い ②社会情勢の変化、住民ニーズの変化により若干薄れてきている ③薄れている	
	④効率性 (コスト単価・経費削減への取り組み)	①	①削減の余地は全くない ②削減の余地は若干ある ③削減の余地がある	現時点において、必要不可欠であり妥当なコストである。
	⑤有効性 (目的・必要性に対しての効果)	②	①大変有効である ②有効である ③余り有効でない ④有効でない	全国大会開催に伴い、全国各地から多くの選手・役員、応援団の来場が期待され、地元地域の活性化、市の経済効果の一端を担うものと考えられるとともに、今後のカヌー振興が図られ、競技人口の増加及びカヌーイベントによる地域の活性化につながるものと期待できる。
	⑥達成度 (事業目標に対して)		①達成できた (100%以上) ②概ね達成できた (80%以上) ③あまり達成できなかった (50%以下) ④達成できなかった (50%未満)	

●ACTION (改善)・・・改善内容等を記載 (一次評価・二次評価)

(10) 改善	①事業内容の方向性			②事業規模の方向性		
	④	①現状維持 ②内容の見直し ③統廃合・休止 ④事業終了	大会開催に向けての施設整備として、老朽化していた浮棧橋3基の廃棄、更新をすることができた。 大会後も、カヌー競技場で行われる各種カヌー大会、ドラゴンカヌー大会、その他のスポーツ活動で活用することが出来る。		①事業拡大 ②現状維持 ③事業縮小	

平成21年度総合計画実施計画・事務事業評価シート

評価調査番号 教総 4

●PLAN(計画)・・・事業の当初目的、施策方針、概要、目指す将来像を記載(事前評価)

(1) 事業概要	①細事業名	奨学資金給付等事業		⑤担当部局	部局名 教育委員会		課等 教育総務課		No.1 作成者		
	②事業主体	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等		⑥予算科目	会計名称 一般会計		款	項	目	事業	細事業
	③事業期間	平成 16 年度 ~ 平成 年度 継続			10	01	03	01	01		
	④総事業費	— 千円		⑦事業の性格	<input type="checkbox"/> 義務的事業		<input checked="" type="checkbox"/> 任意的事業				
	⑧実施根拠	法令、条例等		京丹後市奨学金条例、京丹後市奨学金条例施行規則							
(2) 総合計画	①基本方針	基本目標(=政策目的)		IV 生涯学習都市							
	②計画項目	個別目標(=施策目的)		① 子育ての支援							
	③施策方針	基本計画に掲げる方針		1 経済的に困窮している家庭の修学援助							
(3) 事業内容	①事業目的	経済的に困窮している家庭の高校生、大学生等を対象に奨学金を給付することにより、修学を奨励する。									
	②対 象	経済的に困窮している家庭の高校生、大学生等。									
	③手段・手法	給付該当者を京丹後市奨学金選考・検討委員会において選考し、高校生月5,000円、大学生等月10,000円を給付する。									
	④事業を必要とする背景又は経緯	地域の経済状況が非常に厳しい状況の中、勉学意欲と能力のある生徒及び学生の修学の援助を行い経済的に困窮している家庭の支援は必要。									
	⑤市民参加の取組・内容	無 京丹後市奨学金選考・検討委員会を市民の学識経験者、民生委員、市内高等学校長等で組織し給付者を選考している。									
(4) 達成目標	①達成目標(期待する効果)			②成果指標名			現況値(H19)		目標値(H24)		
	3年後もしくは最終(概ね5年後)	奨学金の給付による修学支援			高校生 大学生等			34人 46人		75人 50人	

●DO(実施)・・・どのくらいの予算でどのような活動(成果)を行ったかを記載

(5) 実施事業	H19年度決算額		H20年度決算額							
	・奨学金選考・検討委員会委員報酬、費用弁償75 ・学資金借入金利子補給金7 ・奨学資金給付金8,460		・奨学金選考・検討委員会委員報酬、費用弁償29 ・奨学資金給付金7,560							
(6) 予算科目	節	金額(千円)	節	金額(千円)						
	1	64	1	24						
	9	11	9	5						
	19	7	19	0						
	20	8,460	20	7,560						
事業費合計		8,542	7,589							
財源内訳	国庫支出金									
	府支出金									
	起 債									
	分担金・負担金									
	その他の 一般財源	8,542	7,589							

●CHECK (点検) ①・・・事業実施によりどのような成果があったか (一次評価)

(7) 昨年度評価の概要	① 事業内容の方向性	①	② 事業規模の方向性	②	③ H20実施における改善実績	平成20年度より制度改正を行い、改正後の制度により、勉学意欲があり、経済的に困窮している学生に修学支援ができた。				
(8) 成果状況 (H20年度事業実績状況)	①達成目標 (期待する効果・成果指標)			H19実績	単位	H20目標	単位	H20実績	単位	H20達成率
	1) 奨学金給付人数			87	人	125	人	80	人	64%
	2)									
	3)									
②その他具体的成果			平成19年度実績			平成20年度実績				
			高校生33人、大学生等54人合計87人の生徒に対し、奨学金を給付することができ、経済的に困窮している生徒の修学を奨励することができた。			高校生34人、大学生等46人合計80人の生徒に対し、奨学金を給付し、経済的に困窮している生徒の修学を奨励を行うことができた。				

●CHECK (点検) ②・・・事務事業評価において上記の自己評価を判断した事由を下記の項目毎に記載 (一次評価)

(9) 事務事業の点検	①戦略性 (上位施策に対して有効か)	③	①基本計画の主要事業である ②実施計画の掲載事業である ③計画に結びつく事業である ④結びつかない	経済的に困窮した家庭の生徒、学生の修学の援助を図るために必要な事業である。
	②市の関与の妥当性 (市が実施する必要があるか)	①	①市が実施する事業である ②市民等の参画協力の余地がある ③市民等民間へ移行の余地がある ④市が関与するものでない	経済的に困窮した家庭の生徒、学生の修学の援助をするためには、行政の支援が必要不可欠である。
	③時代適合性 (社会情勢等から見て必要か)	①	①当初と変わらず必要性は高い ②社会情勢の変化、住民ニーズの変化により若干薄れてきている ③薄れている	近年は、地域の経済状況も非常に厳しい状況の中で、行政による側面的修学支援の必要性は高まっている。
	④効率性 (コスト単価・経費削減への取り組み)	①	①削減の余地は全くない ②削減の余地は若干ある ③削減の余地がある	所得基準により経済的に困窮し勉学意欲のある学生に奨学金給付の決定をしているので削減できない。
	⑤有効性 (目的・必要性に対しての効果)	①	①大変有効である ②有効である ③余り有効でない ④有効でない	厳しい経済状況の中で、勉学意欲と能力のある生徒及び学生の修学支援をするために重要な事業である。
	⑥達成度 (事業目標に対して)	②	①達成できた (100%以上) ②概ね達成できた (80%以上) ③あまり達成できなかった (50%以下) ④達成できなかった (50%未満)	未来ある生徒及び学生の修学への支援ができ、設定した成果指標は概ね達成できたと考える。

●ACTION (改善) ・・・改善内容等を記載 (一次評価・二次評価)

(10) 改善	①事業内容の方向性			②事業規模の方向性		
	①	①現状維持 ②内容の見直し ③統廃合・休止 ④事業終了	18年度から19年度で奨学金制度の見直しを行った。20年度から改正後の制度で修学支援ができていますので現状維持とする。	②	①事業拡大 ②現状維持 ③事業縮小	勉学意欲と能力のある生徒及び学生の奨学金として修学支援を今後も続けていく為に現状維持とする。